

校外教育研究紀要

【研究主題】

地域及び校外での体験活動を通し、
生きる力を身につける生徒の育成



熊谷市立三尻中学校

〒360-0843

埼玉県熊谷市三ヶ尻 2743 番地

TEL 048-532-3657

FAX 048-533-2064

1 学校概要

本校は、埼玉県熊谷市西部の静かな住宅地と豊かな田園に囲まれ、四季の自然を身近に感じられる環境にあります。荒川の清流が近くを流れ、生徒が安心して学び、のびのびと過ごせる落ち着いた地域です。

地域との連携も大切にしており、学校行事や見守り活動、交流イベントを通して、保護者や地域の方々と協力しながら教育活動を進めています。こうした温かなつながりが、生徒の社会性や地域への愛着を育てています。

防災意識の高い熊谷市において、本校の生徒は地域の担い手として大きな期待を寄せられています。私たちは、地域に貢献しながら自ら学び、仲間と支え合って成長する生徒の育成をめざし、日々の学びを充実させています。

2 研究の概要

(1) 研究主題

「地域及び校外での体験活動を通し、生きる力を身につける生徒の育成」

(2) 主題設定の理由

社会の変化が激しい現代において、生徒が自ら課題を見つけ、他者と協力しながら解決していく「生きる力」を育むことが求められている。しかし、地域との関わりや実体験の機会は減少しており、教室だけでは身につけにくい力がある。

そこで、地域や校外での体験活動を取り入れることで、生徒が実社会に触れ主体性や社会性、コミュニケーション力を高めることができる。また、地域の防災や福祉などに関わる経験は、将来の地域の担い手としての自覚を育てる。

以上の理由から、本校では地域及び校外での体験活動を通して、生きる力を身につける生徒の育成をめざし、本研究主題を設定した。

(3) 研究のねらい

地域及び校外での体験活動を通して、豊かな人間性や、自ら学び自ら考える力などの生きる力の基盤を、子ども一人一人に身に付けさせる。

(4) 研究計画

5月	全学年	第1回生徒の意識調査
6月	環境委員	花壇整備
7月	3年	幼児とのふれあい体験
	2年	職場体験学習
	12年	八幡神社大祭参加 (地域生徒)
10月	特支	特別支援学級生徒による農作物の栽培と調理
11月	全学年	ふれあい講演会
	美術部・生活技術部	公民館作品展出品
2月	全学年	第2回生徒の意識調査
通年 各学年	全学年	ロードサポート、生徒会環境委員会による緑化活動
		校外学習、修学旅行



3 研究の取組

本年度は、地域社会とのつながりを深め、校外での多様な体験活動を通して、生徒が主体的に学び、社会性・協働性・課題解決力を育むことを目標に、年間を通して計画的な教育活動を展開した。

(1) 3年 幼児とのふれあい体験

隣接するこども園と連携し、幼児との交流活動を実施した。生徒は、読み聞かせ、外遊び、簡単な制作活動などを通して幼児と関わり、幼児の行動特性や発達段階を理解しながら、優しく接する姿が見られた。

活動後の振り返りでは、「幼児の気持ちを考えて行動することの大切さを知った」「自分の言葉が相手に影響することを実感した」などの感想が多く、思いやりや責任感の育成に大きな効果があった。

また、将来の進路選択において保育・教育分野に興味をもつ生徒も増え、職業観の形成にも寄与した。



(2) 2年 職場体験学習

市内外の事業所の協力を得て、3日間の職場体験を実施した。生徒は、接客、清掃、製造補助、保育補助など、さまざまな職種を体験し、働くことの意義や社会の仕組みを学んだ。

活動を通して、挨拶や礼儀の大切さや時間管理の重要性、責任をもって仕事をやり遂げる姿勢など、社会的スキルの向上が見られた。事業所からは「真剣に取り組んでいた」「地域の若者として頼もしい」といった評価も多く、生徒の自信につながった。



(3) 特別支援学級 農作物の栽培と調理

校内の畑を活用し、種まき・水やり・草取り・収穫までの一連の農作業を体験した。生徒は、自然の中での作業を通して、植物の成長を実感し、継続して世話をする責任感を身につけた。

収穫後は、採れた野菜を使って調理実習を行い、食材への感謝や食の大切さを学んだ。仲間と協力しながら作業することで、コミュニケーション力や達成感が育まれ、自己肯定感の向上にもつながった。



(4) 全学年 ふれあい講演会

地域で活躍する講師を招き、「命」「福祉」「地域貢献」「働くこと」などをテーマとした講演会を実施した。講師の体験談やメッセージを通して、生徒は自分の生き方や将来について考える機会を得た。

講演後の振り返りでは、「地域のために自分ができることを考えたい」「人とのつながりを大切にしたい」「困っている人に寄り添える人になりたい」など、価値観の変容が見られた。講演会は、生徒の内面に働きかける貴重な学習機会となった。



(5) 生徒会環境委員会による緑化活動

校内の花壇整備や植物の管理を通して、環境への関心を高めた。季節ごとの花が咲く学校環境づくりに貢献し、来校者からも好評を得た。委員会活動を通して、責任感や継続力が育まれた。

(6) 校外学習・修学旅行

学年の発達段階に応じた校外学習や修学旅行を実施した。公共施設の見学、歴史学習、自然体験、文化体験など、多様な活動を通して、協働性・主体性・社会性を育む機会となった。

仲間と協力しながら新しい環境に挑戦する経験は、生徒の成長を大きく後押しした。



(7) 地域行事における生徒の活動

地域との連携を重視し、生徒は八坂神社大祭への参加や、公民館作品展への作品出品、環境委員による除草活動など、さまざまな地域行事に主体的に取り組んでいる。これらの活動を通して、地域社会への理解と貢献の意識が育まれている。



4 成果と課題

- 地域との多様な関わりを通して、社会性が高まり、自ら考えて主体的に行動する生徒が増えた。
- 幼児交流・職場体験・ロードサポートなどの活動により、挨拶や礼儀、協働する姿勢が習慣化し、地域の一員としての自覚が強まった。
- 達成感のある体験や感謝される経験を通して、「自分は役に立てる」という実感が生まれ、自己肯定感が向上するとともに、責任感や課題解決力の伸長も確認できた。
- 主体的に取り組む生徒と、指示を待ちやすい生徒との間に依然として大きな差が見られ、主体性の育成に個人差が生じている。
- 体験で得た学びが、学習習慣や生活態度に十分結びついておらず、日常の行動改善に生かされていない。継続的に振り返る仕組みづくりが求められる。
- 体験先や新たな学習資源の確保など、地域との連携体制を継続的に強化する必要がある、持続可能な協力関係の構築が課題となっている。